IWAKI IR Report

株主の皆様へ

第78期 事業報告書

2016年12月1日▶2017年11月30日

P 1 トップメッセージ
代表取締役社長 岩城 慶太郎

P 5 セグメント別の概況

P 7 連結決算ハイライト

P 8 小さな社会貢献活動への取り組み

P 9 イワキグループネットワーク

P10 会社概要・株主メモ・株主様アンケート

裏表紙 株式情報

イワキ株式会社

証券コード：8095

トップメッセージ

イワキ株式会社
代表取締役社長
岩城 慶太郎

株主の皆様におかれましては、平素より当社グループへのご理解と厚いご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに当社第78期(2016年12月1日から2017年11月30日まで)の概況と、今後の事業展開についてご説明させていただきます。ご一読の上、さらなる成長を目指す当社グループに引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

2018年2月

表紙写真：
2017年7月に開催した「感謝の会」の模様。
イワキグループの歴史を振り返るとともに、お取引先様へ社長交代のご挨拶と、日頃の感謝の気持ちをお伝えしました。

創業以来最高益の達成

当社は2014年に創業100周年を迎えたことを機に、翌年2015年にグループ中長期経営ビジョン「Vision“i-111”(アイ-トリプルワン)」を策定、次なる100年の礎作りに入りました。

Vision“i-111”は、創業111周年を迎える2025年11月期までに「売上高1,000億円」と「ROIC(投下資本利益率)10.0%以上」を実現させるための経営計画です。当期(2017年11月期)は、その2年目にあたり、また私が社長として会社運営にあたった初めての事業年度でございます。

その当期の業績が、売上高573億円(前期比4.1%増)、営業利益15億7千万円(同60.8%増)と増収増益となり、また創業以来最高の営業利益を上げることができたことは、非常に幸先の良いスタートであると考えております。

しかし残念ながら、当期(2017年11月期)における創業以来最高益の達成は、Vision“i-111”の成果であるとは必ずしも言えませんし、ましてや私が社長に就任したからではございません。なぜなら、最高益を支えた3つの要素である、①ジェネリック医薬品関連事業(医薬・FC事業)の大幅な増益、②化粧品通販事業(HBC事業)の成長と高収益化、③表面処理薬品事業(化学品事業)の黒字転換は、いずれもVision“i-111”策定以前に設定された目標が具現化したものだからです。

つまり、当社グループの変革と再成長は、いよいよこれから、とお考え下さい。

中期経営計画(3ヵ年計画)のローリング

そのような中で、当社は本年1月に中期経営計画(3ヵ年計画)の再策定を行い、皆様にご報告いたしました。

Vision“i-111”では、その第一段階目標値として、2016年11月期から2018年11月期までに「売上高600億円」「営業利益10億円」「ROIC4.0%以上」の達成を目指しておりました。

しかし、計画2年目である当期(2017年11月期)の連結業績において、すでに営業利益は15億円を超え、ROICについても5.4%に達していることから、今期(2018年11月期)からの新中期経営計画として、3年後の2020年11月期までに「売上高650億円」「営業利益21億円」「ROIC7.0%以上」を達成するという目標を再設定いたしました。

なお、すでにご報告の通り、今期(2018年11月期)は売上高590億円、営業利益14億円、ROIC4.8%を見込んでおり、Vision“i-111”の第一段階目標値と比較いたしますと、売上高のみ目標に届かない見込みとなっております。これには複数の要因がありますが、最大の理由は新規事業投資の不足であると認識しております。

事業投資を加速

当社グループにおける当期(2017年11月期)の設備投資額は5億5千万円であり、これは過年度並みの水準でございます。また、その内訳は主に製造業を営む子会社(岩城製薬株式会社およびメルテックス株式会社)における設備更新等によるものであり、当社グループの事業領域を拡大する目的の投資が実行できませんでした。

Vision“i-111”では、2016年11月期から2025年11月期までの10年間における売上高の年平均成長率を5.7%に設定しております。当社グループが事業を営む市場において、この成長率を実現させるためには、本来、積極的な事業投資が不可欠でございます。

そこで今期(2018年11月期)は、①抗がん剤など高活性の原料医薬品市場への参入に向けた新分析棟の設置(医薬・FC事業)、②バリューチェーン拡張による「策揃え」のさらなる進化(HBC事業)、③半導体デバイス市場におけるデファクトスタンダード獲得に向けた研究施設の増設(化学品事業)など、積極的な事業投資を加速してまいります。

「人が自然と集まる会社」へ

企業には、事業投資等に伴う定量的な成長だけでなく、人財や業界への投資に伴う定性的な成長が不可欠であると、私は考えております。特に、人財投資については従前より重要な経営目標のひとつであり、これまでにも様々な社員教育プログラムを実践してまいりました。

中でも、月例の社内講演会である「木曜ロンザ」は、当社を代表する人財教育プログラムです。毎月1度、多種多様な講師の方をお招きし、当社の会議室でご講演をいただく。これだけのことなのですが、これを15年以上、200回以上にわたって継続しております。

当期(2017年11月期)からは「木曜ロンザ」に当社グループの社員だけでなく、お取引先様にもご参加いただけるようにいたしましたところ、毎回20〜30社の主に経営層の皆様に当社までお越しいただいております。最近では「木曜ロンザ」参加者同士の交流により、新しいビジネスが創出されたこともございました。

当社グループといたしましては、よりよい製品・サービスをお取引先様に提供するために、こうした人財と業界に対する定性的な投資は必要不可欠なものであると信じ、またそれは当社の重要な経営戦略である「策揃え」の一環であると考えております。これからも「人が自然と集まる会社」づくりに向けて、継続した取り組みを行ってまいります。

グループビジョン推進室の設置

企業の定性的成長のためには、いわゆる「働き方改革」の諸施策として挙げられるような、柔軟で多様性ある環境を社員に提供することも、大変重要と考えております。

そこで、今期(2018年11月期)より、社長直属の組織として「グループビジョン推進室」を設置し、こうしたテーマに対して機動的に対応し得る体制といたしました。

現在、同室においては、①完全在宅勤務を可能にするテレワークの推進、②企業主導型保育所の設置、③障がい者雇用の促進と農福連携、などの課題を優先事項として、検討を進めております。

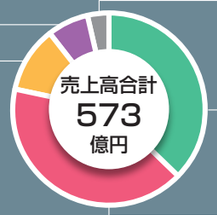
繰り返しになりますが、当社グループの変革と再成長は、いよいよこれから。株主の皆様におかれましては、これからも長きにわたりご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長　岩城 慶太郎

セグメント別の概況

お取引先様の課題解決に向けた様々なニーズに当社グループのあらゆる機能で応える「策揃え」を実現し、変革スピードを向上させるため、プロダクツ毎のバリューチェーンに従って医薬・FC（Fine Chemical）事業、HBC（Health & Beauty Care）事業、化学品事業、食品事業の4事業にセグメントを再構築いたしました。

売上高構成比（2017年11月期）



- その他 3.5%
- 食品事業 6.9%
- 医薬・FC事業 37.5%
- 化学品事業 11.0%
- HBC事業 41.1%

医薬・FC事業

イワキ株式会社
岩城製薬株式会社

※FC=Fine Chemical

● 事業内容

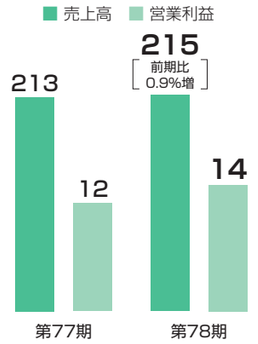
医薬品原料・医薬品の開発・製造から販売、また臨床検査薬などの販売も行っています。

● 当期のポイント

医薬品原料分野では、米国向け血管収縮剤原料の売上が増加。

医薬品分野では、医療用医薬品の外皮用剤全般が好調に推移。

○ 業績推移 ○



HBC事業

イワキ株式会社
APROS

※HBC=Health&Beauty Care

● 事業内容

一般用医薬品、化粧品原料・機能性食品原料の販売、化粧品の通信販売およびOEMなどを行っています。

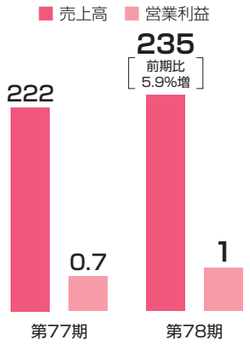
● 当期のポイント

機能性食品原料および化粧品原料分野は、全体として堅調に推移。

一般用医薬品を主体とした卸売分野は、堅調に推移。

通販化粧品分野は、新製品の発売などにより、好調に推移。

○ 業績推移 ○



化学品事業

Meltex

● 事業内容

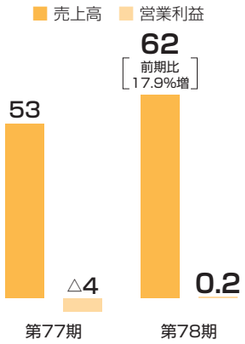
表面処理薬品の製造・販売、化学品原料などの販売を行っています。

● 当期のポイント

表面処理薬品分野は、プリント配線板向け新製品が売上拡大に寄与。

表面処理設備分野は、業界全体の設備投資の低迷から、厳しい状況で推移。

○ 業績推移 ○



食品事業

イワキ株式会社
ボーエン化成株式会社

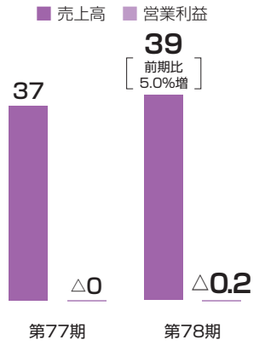
● 事業内容

食品原料などの製造・販売を行っています。

● 当期のポイント

食品原料分野は、新規受注の獲得、健康志向食品向け原料および関連会社製品の伸長により売上は堅調に推移。

○ 業績推移 ○

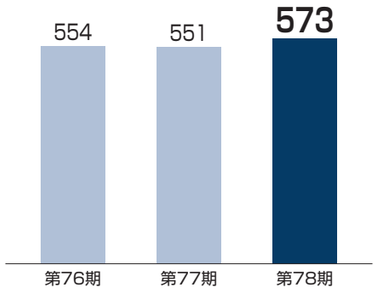


連結決算ハイライト

	第77期		第78期
売上高	551億円	➡	573億円
営業利益	9.7億円	➡	15.7億円
経常利益	10.7億円	➡	17.7億円
親会社株主に帰属する当期純利益	0億円	➡	12.4億円

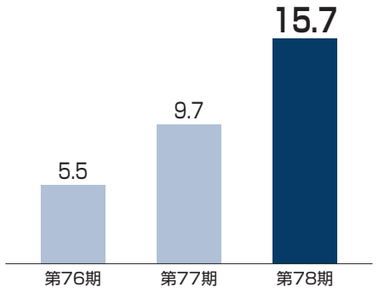
売上高

単位:億円



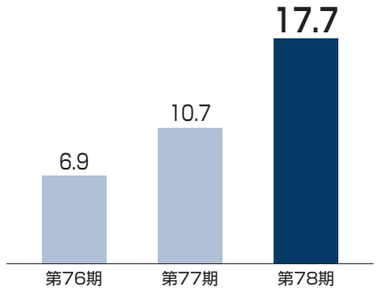
営業利益

単位:億円



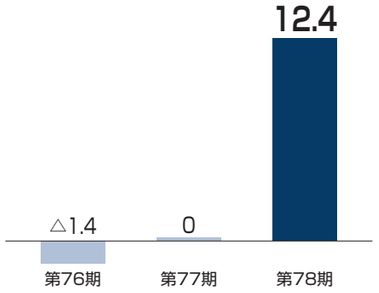
経常利益

単位:億円



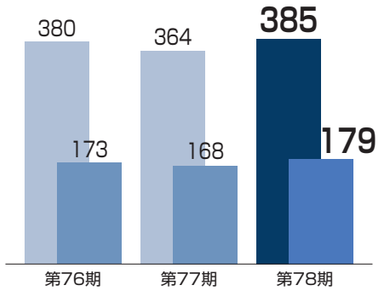
親会社株主に帰属する当期純利益

単位:億円



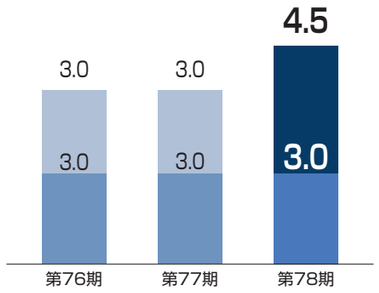
総資産・純資産

■総資産 ■純資産　単位:億円



1株当たり年間配当金

■第2四半期 ■通期末　単位:円



小さな社会貢献活動への取り組み

AED講習

2017年9月14日にメルテックスCSセンターにてAED（自動体外式除細動器）講習を実施しました。初めてAEDを使用する方から受講経験者まで、いざ救助の時に使えるよう積極的に参加しました。

中央区緑のアダプト活動

2012年2月から「中央区緑のアダプト活動」に参加しております。中央区保有の花壇を、区に代わって管理・運営しており、年4回の花の植替え、日々の水撒きや雑草取りなどを実施しております。

献血活動

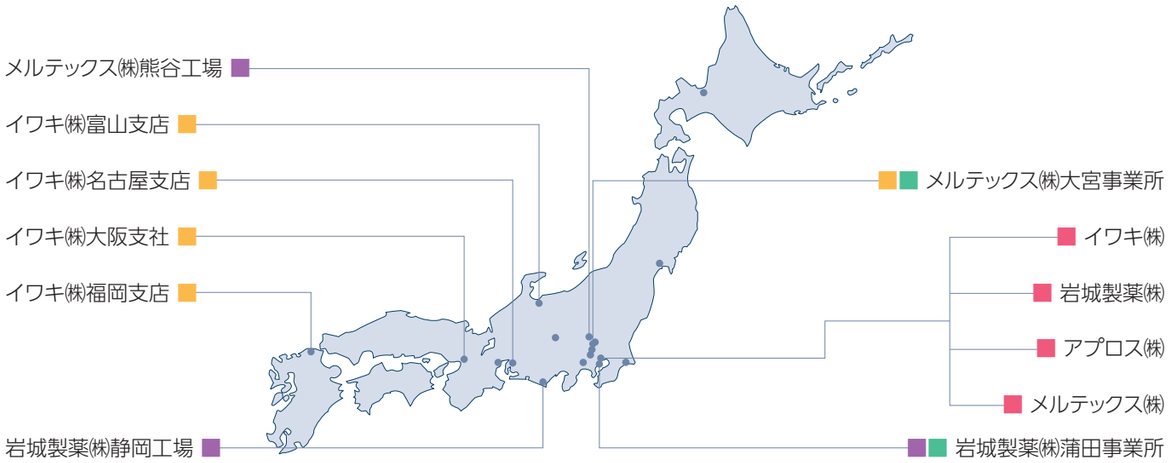
2017年6月6日に、東京都赤十字血液センターのご協力のもと、本社にて献血活動を実施いたしました。今後も献血活動は継続して実施していきます。

メルテックスの熊谷工場では、7年以上社会貢献活動として献血を行っており、日本赤十字より支部長感謝状を頂きました。

イワキグループネットワーク（2017年11月30日現在）

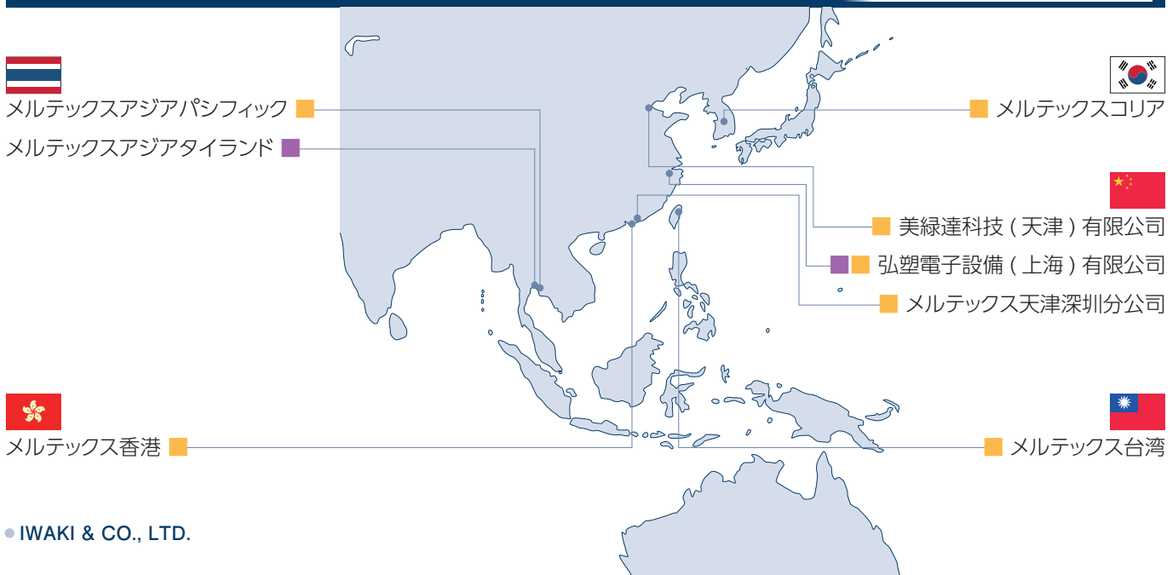
（主要）国内ネットワーク

凡例 ■ 本社 ■ 生産拠点 ■ 営業拠点等 ■ 研究拠点



海外ネットワーク

凡例 ■ 生産拠点 ■ 営業拠点等



会社概要

会社概要 （2017年11月30日現在）

社名	イワキ株式会社
本社所在地	東京都中央区日本橋本町四丁目8番2号
創業	1914年（大正3年）7月10日
設立	1941年（昭和16年）9月20日
資本金	26億4百万円（東証1部上場）
社員数	（単体）281名　（連結）953名
主な事業内容	医薬・ＦＣ事業　ＨＢＣ事業 化学品事業　食品事業
主な事業所所在地	•大阪支社　大阪府大阪市 •富山支店　富山県富山市 •名古屋支店　愛知県名古屋市 •福岡支店　福岡県福岡市
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行、三井住友銀行

取締役および監査役 （2018年2月23日現在）

代表取締役会長	岩城　修	取締役	古橋　勝美
代表取締役社長	岩城　慶太郎	取締役	越智　大藏
常務取締役	藤田　久	取締役	川野　毅
常務取締役	大森　伸二	常勤監査役	山口　誠
常務取締役	今野　高章	常勤監査役	渡邉　弘行
取締役	熱海　正昭	監査役	吉田　孝
取締役	伊藤　龍雄	監査役	守山　淳

株主メモ

事業年度	毎年12月1日～翌年11月30日
期末配当金受領株主確定日	毎年11月30日
中間配当金受領株主確定日	毎年5月31日
定時株主総会	毎年2月
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	三井住友信託銀行株式会社　証券代行部 〒168−0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話：0120−782−031（フリーダイヤル）
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う。 公告掲載ＵＲＬ　http://www.iwaki-kk.co.jp/ （ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。）

（ご注意）1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三井住友信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三井住友信託銀行）にお問合せください。なお、三井住友信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主様アンケート

株主の皆様へアンケートのお願い

当社では、株主の皆様の声を伺い、株主様とのコミュニケーションの充実を図っていきたいと考えております。お手数をおかけしますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

（キリトリ）

【株主の皆様へのアンケート】 該当するものを○で囲んでください。

Q1. 当社の株式を保有された理由は何ですか？

① 安定配当　② 株価　③ 事業内容
④ 経営理念　⑤ 収益性　⑥ 将来性
⑦ 財務内容　⑧ 証券会社の勧め　⑨ 相続
⑩ その他（　　）

Q2. 当社の株式の保有期間はどのくらいですか？

① 1年未満　② 1年～3年未満　③ 3年～5年未満
④ 5年～10年未満　⑤ 10年以上

Q3. 当社に関する情報収集の手段は具体的に何ですか？

① 証券会社　② 四季報　③ 日経会社情報
④ 新聞・雑誌記事（媒体名：　　）
⑤ 当社ホームページ
⑥ インターネット情報（サイト名：　　）
⑦ その他（　　）

Q4. 「株主の皆様へ」（事業報告書）について、ご感想をお聞かせください。

Q5. 当社に対し今後期待されることは何ですか？

Q6. その他、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

株主の皆様へアンケートのお願い

郵便はがき

料金受取人払郵便

日本橋局
承　認
8334

差出有効期間
平成30年5月
31日まで

切手不要

1 0 3 - 8 7 9 0

9 2 7

東京都中央区日本橋本町四丁目8番2号

イワキ株式会社 経営管理部 行

該当する□内に✓（チェックマーク）をおつけください。

年　齢	□20歳未満　□20代　□30代　□40代 □50代　□60代　□70代以上
ご職業	□会社役員　□会社員　□公務員・団体職員 □自営業　□専門職（医者・弁護士等） □農業　□主婦・パート　□無職・年金生活者 □その他（　　）
お住まいの地域	□北海道　□東北　□関東　□北陸　□中部　□近畿 □中国　□四国　□九州・沖縄　□その他地方

※ 本アンケートにご記入頂きました内容は統計的に集計し、第三者に開示することはいたしません。

（にナビキ）

株式情報（2017年11月30日現在）

株式の状況

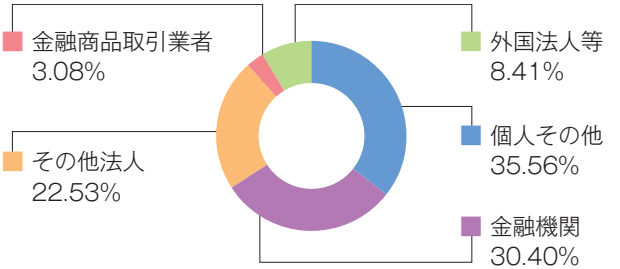
発行可能株式総数	136,000,000株
発行済株式の総数（自己株式906,873株を含む）	34,357,380株
株主数	4,107名

大株主（上位10名）

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
株式会社ケーアイ社	3,771	11.27
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	2,430	7.26
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,658	4.95
株式会社ヘルスケア・キャピタル	1,398	4.17
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,188	3.55
岩城　修	970	2.90
イワキ従業員持株会	867	2.59
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（役員報酬BIP信託口・76082口）	767	2.29
株式会社大阪ソーダ	658	1.96
株式会社みずほ銀行	543	1.62

（注）持株比率は自己株式（906,873株）を控除して計算しております。

株式分布状況（所有者別分布状況）



（注）小数点第2位まで記載（第3位以下切り捨て）しております。
持株比率は自己株式（906,873株）を控除して計算しております。

イワキ株式会社
〒103－8403 東京都中央区日本橋本町四丁目8番2号
電話：03－3279－0481
http://www.iwaki-kk.co.jp/ir.html

VEGETABLE OIL INK

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC www.fsc.org
FSC® C022915

環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。